

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2 年次生 千歳真琴

1. はじめに

私は国際交流基金の助成を受け、8月18日から25日まで行われたバンクーバーサマープログラムに参加いたしました。このプログラムでは、滞在中はホームステイをさせていただき、午前は語学学校に通い、午後はいろいろな施設の見学や、現地で働く医療関係者の方々からお話を聞かせていただきましたので報告致します。

2. 授業

バンクーバーでは、Oxford International Vancouverに通い、一緒に行った先輩・後輩たちと一緒に医療英語に関する授業を受けました。

授業では病名やその症状、医者と患者の会話などを勉強しました。初めて聞く英単語が沢山あり、自分の語彙力の無さを改めて実感するとともに、もっと英単語を覚えようという意欲が湧きました。先生が病名を簡単な英単語に変換したり、ジェスチャーなどで分かりやすく説明してくださったので、置いていかれることなく安心して楽しく授業を受けることができました。

また、英単語・英文を用いたゲームやテーマが与えられ、ペアでそのことについて会話をするといった、英語に慣れるために授業もあったお陰で、英語に対する苦手意識が減った気がします。

最後ではペアで医師と患者役に分かれ、会話をするというプレゼンテーションがあり、私たちは「喘息」を症状にプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションを行なったお陰で、喘息についても詳しく学ぶことができました。

3. 施設見学と現地で働く医療関係者の方々からのお話を聞いて

午後は施設見学や、現地で働く医療関係者の方々からお話を聞きました。バンクーバーでの医療状況など見たり聞いたりし、日本とバンクーバーの違いなどを学ぶことができました。中でも、病院での環境の違いに驚きました。日本の病院には、医師と複数人の看護師がおり、看護師が注射などの作業をしてくれます。一方で、バンクーバーではクリニックには医療事務の人しかおらず、医師が一通りの作業を1人で行います。そして必要に応じて専門機関に紹介状を書いて詳しく調べることができます。日本に比べてかかりつけ医の精度が厳重であり、かかりつけ医の紹介状が無ければ基本は専門機関に診てもらえないことになっているので、専門機関では緊急の患者が優先的に診てもらえるいい制度だなと思いました。

また、バンクーバーでは保険料さえ払えば、公立の病院で無料で診てもらえ、薬も無料にな

りますが、優先順位の高い患者からなのでなかなか予約が取れません。その為、お金のある患者は私立の病院で高いお金を払って早く診てもらおうという仕組みでした。

現地で働く方のお話の中で興味深い話題がありました。バンクーバーではマリファナが合法化しましたが、なぜマリファナを合法にしなけりばならなかつたのか、なぜドラックを使用する人が多いのか、その疑問についてバンクーバーの歴史的な背景から学ぶことができ、日本にいたら分からないことを学ぶことができました。

4. ホームステイ

カナダでは滞在中、ホームステイをさせていただきました。初めてのホームステイで緊張していた私を、ホストマザー、ホストファザー、そして長女さんが優しく迎え入れてくださいました。また、積極的に留学生を受け入れている家庭で、私たちの他に既に3人の日本人がホームステイしていたので、英語でなんて言っているかわからない時は日本人の人に助けてもらい、日本とは異なる文化や考えに触れながらとても楽しく過ごすことができました。「またカナダに来ることがあればいつでも泊まりにおいで」と言ってもらえたので、また会いに行きたいと思います。

5. 観光

バンクーバーには沢山の観光地がありましたが、どこも学校終わりにバスや電車で行けるほど近くにあり、8日間とても楽しく観光地を巡ることができました。みんなで観光に行ったり、沢山ある都会ですが少し行けば自然もありとても素晴らしい場所だと思いました。

6. 最後に

今回の留学は、バンクーバーと日本の違いを身をもって体験できるととても素晴らしいものでした。今後もっと英語が必要になる中で、机の上での勉強だけでなく、英語でのコミュニケーションの取り方も学んでいく必要があると思い、英語を学ぶ意欲が湧きました。

また、今回の留学で初めて会った先輩、後輩と一緒に観光や買い物などにいく中で仲良くなれてとても嬉しく思います。

このプログラムに参加できたことは私の人生の貴重な体験の一つになりました。

